

第2学年 道徳科学習指導案

令和元年11月25日(月)第5校時
2年5組男子14名女子13名計27名
授業者
共同研究者

1 主題名

おもいやりの ころ

2 主題のねらい

◎身近にいる人の身の上や心情に思いを寄せ、温かい心で接するよさを大切に、親切にしていこうとする。
理解、判断力 相手のことを心配し、その人の気持ちが分かり、自分にできることをすることが思いやりであることが分かる。

3 教材名 (主たる内容項目)

ぐみの木と 小鳥 (B 親切 思いやり)

4 主題設定の理由

(1) 道徳的価値

指導内容は、B 「主として人との関わりに関すること」の(7)「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」である。

「親切」とは、「思いやり」が目に見える形となって表れた具体的な行為である。「思いやり」とは、自分の立場に重ね、「困っていそうだな」と相手の身の上を慮る心である。

困っている人に気づき、相手に自分を重ね、その人の立場になって考えれば考えるほど、困っていることが分かり、何かをせずにはいられない心が動く。それが「親切」という行為となって表れる。どのような心からその行為が出て、相手がどう感じたか、目に見えない心と目に見える行為を構造的に考えさせたい。

2年生ともなると、幼少期の家族だけの関わりから次第に人間関係に幅が出てくる。近所の人や学校の人々、友達などのかかわりが増え、自分中心の考え方から、相手の考えや気持ちにも気づくことができるようになってくる。「よいことをしたい」という気持ちが強く、人の助けになるようなことを進んで行う児童が多い。しかし、自分が「したい」という気持ちだけが強く、相手が本当に望んでいることなのかを捉えるには至っていない。相手の心情を想像したり推察したりする力を養うには、相手をよく見たり相手の話を聞いたりすることで、何をすれば相手は本当に喜ぶのかを考え、行動することの大切さに気付かせたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、明るく男女ともに仲よく過ごすことができる。進んでお手伝いをし、役に立ちたいと行動しようとする子が多いが、相手が何に困っているか気づかない子も見られる。

本学級の児童に、事前に「思いやり」に関するアンケート調査を行った。

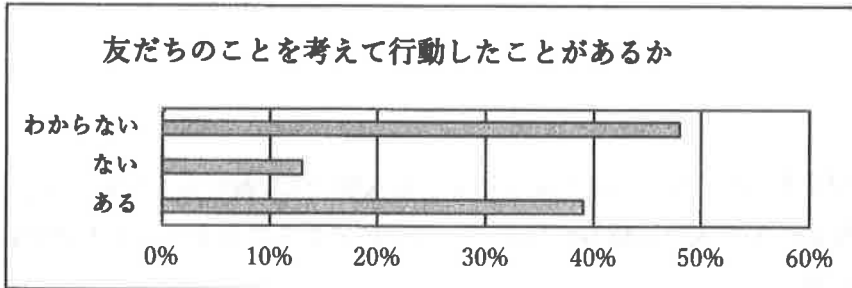
①「思いやりとはどんなことだと思いますか」

- ・優しい 32% ・人の気持ちを考えていること 13%
- ・親切にすること、協力して助け合うことなど。

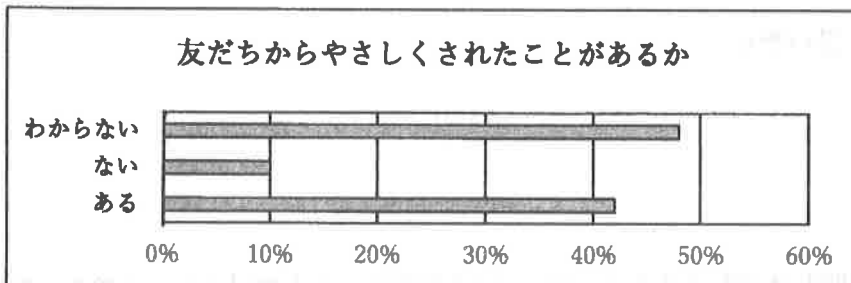
②「思いやりは大切だと思いますか」

- ・大切だと思う 100%
- 〈理由〉 ・優しくなるから (10%) ・友だちを大切にすることだから (10%)
- ・相手も自分もいい気持ちになれるから (7%) ・良いことだから (7%)

③「友だちのことを考えて行動したことがありますか」



④「友だちから優しくされたことがありますか」



これらの結果から、児童は「思いやり」について大切さを十分に感じているが、その「思いやり」の具体的な行為がどんなことなのか明確には分からない児童が多いことが分かった。その反面、自分中心の思いが強いと周りに関心だったり、どういふことを相手が求めているか分からなかったりする児童もいることが分かった。低学年の発達的特質から自分中心の考え方をすることは多いが、様々な人との関わりの中から、相手の考えや気持ち、立場に気付くことができるようにしていきたいと考える。

(3) 教材観

この頃姿を見せないりすを心配するぐみの木。りすの様子を見に行く小鳥。小鳥は、りすが病気であることを知り、嵐の日でさえもぐみの実を届けに行く。その小鳥を心配そうに見つめるりす。ぐみの木、小鳥、りすの互いを思いやる心と、それを具体的に実行した行為が描かれており、心と行為・行動の関係を具体的に考えることのできる教材である。心と行為の関係をj知ることjで、自分も温かい思いやりの心をもって生活したいという意欲につなげさせたい。

(2) 校内研究との関連

共に学び合い、自己を表現できる子どもの育成
～道徳科における考えたくなる導入の工夫と振り返りを保障する授業を通して～

視点①《学び合い学習》

- ・ぐみの木、小鳥、りす三者の中で、思いやりがある者は誰かをグループで話し合い、全体に紹介する。

視点②《自己を表現できる子どもの育成》

- ・自分の考えに理由を添えられるよう話型を活用させる。
- ・自分の意見を表すためのネームカードを黒板に貼る。

視点③《考えたくなる導入の工夫》

- ・初発の発問やふわりんを活用して、本時で考えさせたい項目に意識を向ける。

視点④《振り返りの保障》

- ・本時で学んだことや考えたことが振り返られるように、振り返りの視点を提示する。

5 本時の学習

(1) 指導の工夫

① 発問の工夫

展開前半では、三者の行動を話し合い、思いやりの人物について考えを深めさせたい。展開後半では、病気のりすも行動は少ないが、思いやりの行動を起こしていることに気づかせ、三者とも相手のことを心配し、その人の気持ちを考え自分にできることをしていることに目を向けさせたい。

② 書く活動

ノートに自分の考えをまとめさせる。

③ 話し合い活動

グループで意見の交流をした後に、思いやりのある行為をしている人は誰かについて話し合い、三者とも相手のことを思って自分にできることをしていることに気づかせたい。

(2) 学習指導過程

段階	学習活動	○主な発問 ◎中心発問・予想される反応	◇指導上の留意点 ■指導の観点
導入 7分	1. 「思いやりのある人」からイメージすることをまとめ、思いやりに対する自分の考えを持つ。	○「思いやりのある人」とは、どんな人ですか。 ・優しい人 ・助けてくれる人 ・手伝いをしてくれる人 ・物を貸してくれる人	◇内容項目に対する子どもたちの思いや考えをそれぞれ把握させる。 ■「思いやり」に対する授業前後の児童の考えの変容を見る。 (板書及びノートに残す)
展開 28分	2. 資料「ぐみの木と小鳥」の朗読を聞いて、思いやりの心と行動について考える。	○ぐみの木と小鳥、りすの“やさしいな”“すごいな”と思うところはどんなところですか。 ・ぐみの木が、おなかのすいた小鳥に自分の実をあげた。 ・話を聞いた小鳥が、りすの様子を見に行った。 ・小鳥が、病気のりすにぐみの実を届けた。 ・嵐の日も、小鳥はぐみの実をりすに届けた。	◇グループで、三者の行動を話し合い、全体で伝え合う。 三者の行動を具体的に板書する。

<p>☆三者の中で、思いやりのあるものは誰か、理由もつけて考える。(個人)</p> <p>☆グループトークをする。</p> <p>☆全体交流する。</p> <p>☆りすの思いやりについて考える。</p>	<p>◎3人の中で、思いやりのある人はだれだと思いますか。</p> <p>・小鳥だと思う。 →ぐみの木が心配していることをりすに伝えたから。 →嵐の中をぐみの実をりすに届けたから。 →りすの様子をぐみの木に伝えたから。</p> <p>・ぐみの木だと思う。 →おなかをすかせた小鳥やりすにぐみの実をあげたから。 →りすを心配しているから。</p> <p>・りすだと思う。 →小鳥を心配そうに穴から見ているから。</p> <p>りすの思いやり気づいている児童がいない場合</p> <p>○りすさんは、思いやりがないんですね。 ・りすは、小鳥を心配そうに穴から見ているから、りすも思いやりがあると思う。</p>	<p>話型の提示</p> <p>ぼく・わたしは、()だと 思います。 なぜなら、 _____ だと思 います。</p> <p>◇グループで、意見の交流をし、思いやりのある人物について考えを深める。</p> <p>■登場人物の行為から、相手のことを思って自分にできることをしていることに気づいたか。(発言・ノート)</p> <p>◇自分の意見を表すための ネームカードを黒板に貼る。</p> <p>◇りすの思いやりにも気づかせたい。</p> <p>◇登場人物の行為から、相手の気持ちを考えて自分にできることをする思いやりのよさに気づかせたい。</p>
<p>終末10分</p>	<p>3. 今日、学んだことを振り返る。</p> <p>○「思いやりのある人」とは、どんな人ですか。</p> <p>・相手の気持ちを考えて行動できる人。 ・困っている人に気づき、助けてくれる人。</p>	<p>■「思いやり」について、今日の学びを付け加えて自分の言葉でまとめる。 (ノート)</p>

(3) 評価

○相手のことを心配し、その人の気持ちが分かり、自分にできることをすることが思いやりであることが分かったか。

(4) 板書計画

★ 思いやりのある人ってどんな人?

- ・やさしい人
- ・助けてくれる人
- ・ものをかしてくれる人

↓

相手の気持ちを考えて行動できる人。

♥ ⑩ぐみの木と小鳥

☆ 3人の中で思いやりのある人はだれですか?

```

graph TD
    G[ぐみの木] <--> R[りす]
    G <--> K[小鳥]
    R <--> K
  
```